

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に活用した主な取組事例

平成29年度

意 見	取 組 事 例
<p><u>29.9.26、29.11.21 報告事項「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告」に関する意見</u></p> <p>1. 日本誕生の地である奈良で、奈良の良さを大学生に学んでもらい、奈良の子どもたちに教育してほしい。</p>	<p>1-1 奈良女子大との協働による新教養科目「奈良と教育ーここはどこ？ 私は誰？ー」を平成31年度から実施する。その目標は以下の4点である。</p> <p>① 教師として、自分が働く地域を知り、学校と地域の関係について対症的に理解する力を身につけること。</p> <p>② 奈良の事例を通して、日本の教育の歴史と現状、課題について考えること。</p> <p>③ 教育という視点から、奈良についての理解を深めること。</p> <p>④ 自らが他ならぬ奈良の地で学んでいることの意味を意識し、問い直すこと。</p> <p>また、全15回の中には、奈良国立博物館と奈良文化財研究所を訪問し、講話を聴いたりフィールドリサーチをしたりする学習を取り入れる。</p> <p>1-2 平成31年度より、教養科目としてすでに開講しているESD関連科目を選択推奨科目に指定するとともに、そのうちの「ESD概論」と新設する「ESD-SDGs基礎論」を必修科目として指定する。そこでは奈良や奈良の文化についても扱い、本学を卒業する全ての学生が奈良の文化を理解し、その持続発展に資する教育実践力を身に付けることを期待している。</p> <p>1-3 本学教員に対して、ESDに関する研修を行う（平成30年11月28日、平成31年2月26日）。そのことを通し、各教員がESDに対する理解を深め、各自の授業において学生に奈良の文化やその持続発展に寄与する教育実践力を育成し、奈良の子どもたちに奈良の良さを教えることができるようにする。</p> <p>1-4 奈良の文化に接する科目は、ユネスコスクール推奨科目として「アジアの中の日本美術史」「持続可能な開発のための教育と世界遺産」等が開設されている。また、教育課程外での活動として、音声館における奈良のわらべうたコンサートや留学生と奈良の文化に触れるなどの活動が行われている。さらに平成30年度には、奈良工業高等専門学校・奈良女子大学の生徒学生とともに、奈良の染色を学ぶプロジェクトも実施し</p>

<p>2. 奈良の文化にもっと接してほしい。</p> <p>3. 地域と社会を学ぶつながりが大切ではないか。</p> <p>4. 教育委員会と大学が連携していかないといけない。</p> <p>5. 大学で学んできたことを現場でどう繋げるかの実感がなく、子どもや保護者との関係で悩む学生がいるため、是非現場での実践を増やしていくべき。</p>	<p>た。</p> <p>1-5 奈良国立博物館、奈良文化財研究所からも「奈良教育大で学んだ学生は誰もが奈良を理解し、子どもたちに奈良の歴史・伝統・文化について教育できる人材として育成してほしい」との要望を受けている。今後さらに、教育課程の見直しや新規プロジェクトを立てるなどして、推進していきたい。</p> <p>2-1 上記 1-1～1-5 と同様。</p> <p>3-1 教員を目指し成長していく上で、学校現場との関わりの他に、地域・社会と関わることは極めて重要なことと認識している。また、「チーム学校」の一員として「開かれたカリキュラム」を立案し、実施していく能力も今後は必要になる。本学学生は履修科目が多い中で、自発的にスクールサポート活動を行うなど、多くの学生が精力的に学校との関わりをもっている。今後は、本学ボランティアサポートオフィスのさらなる協力を得ながら、学校を超えた地域・社会に接する機会を学生に促していきたい。</p> <p>4-1 奈良県教育委員会・奈良市教育委員会とは密な連携を図り、教員養成、教員研修、教員を目指す高校生の支援（次世代教員養成塾の企画・実施）、教員人事交流等を実施している。</p> <p>4-2 喫緊の課題としては、新学習指導要領に対応できる力量形成、新設された奈良県教員育成指標に基づく研修などがある。それらに対し、教育委員会とは連携をさらに深めながら、奈良県の教育向上のために貢献していきたい。</p> <p>5-1 平成 31 年度からの新教育課程では、「学校フィールド演習（学校体験活動）」を必修科目として新設し、自発的に行うスクールサポート活動とともに、学校現場と関わる機会を増やすこととしている。</p> <p>5-2 「養成と研修の融合」としての取組として、奈良県内の 2・3 年目教員研修に双方向遠隔授業システムを活用して学生を参画させている。このことにより、「自分が教員になった時の姿」を具体的にイメージさせ、教員になる意欲の維持・醸成を図っている。</p> <p>5-3 保護者対応など学校現場での困難な課題については、授業のみならず、教員就職支援として管理職経験のあるキャリアアドバイザーによって具体的対応方法などを指導している。</p>
--	--